

Location and coastal use of marinas in the Tokyo Metropolitan Area

著者	Sato Daisuke
内容記述	Thesis (Ph. D. in Science)--University of Tsukuba, (A), no. 3130, 2003.3.25 Includes bibliographical references
発行年	2003
URL	http://hdl.handle.net/2241/5508

氏 名 (本 籍)	佐 藤 大 祐 (宮 崎 県)
学 位 の 種 類	博 士 (理 学)
学 位 記 番 号	博 甲 第 3130 号
学位授与年月日	平成 15 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	地球科学研究科
学 位 論 文 題 目	Location and Coastal Use of Marinas in the Tokyo Metropolitan Area (東京大都市圏におけるマリーナの立地と沿岸域利用)
主 査	筑波大学教授 理学博士 斎 藤 功
副 査	筑波大学教授 理学博士 田 林 明
副 査	筑波大学教授 理学博士 手 塚 章
副 査	筑波大学講師 P h . D . 呉 羽 正 昭
副 査	奈良教育大学教授 理学博士 淡 野 明 彦

論 文 の 内 容 の 要 旨

本研究はヨット等を保管するマリーナを取り上げ、マリーナの施設構成、立地プロセスおよび利用者の海域利用等の分析を通してマリーナの立地の空間的特性を総合的に解明したものである。従来、マリーナは観光地理学において格好の研究対象でありながらも、マリーナの会員名簿の入手やヨット等の行動海域について聞き取りが困難であったため、研究の手薄な分野であった。著者は地道なフィールドワークを通じてこれら入手困難な資料の収集に成功し、マリーナ利用者の居住地、社会属性とレジャーボートの行動期間、行動海域等を知ることができた。

まず、マリーナの保管艇の種類と規模、クラブハウスやレストラン等の施設構成を基準にマリーナを分類した。その結果、外洋型、内湾型、湖沼型という3つの地域類型が抽出され、それぞれの地域類型は時間的・空間的に棲み分けて形成されたことを明らかにした。すなわち、外国人居留地からの系譜を引く外洋型マリーナは、三浦半島の相模湾側を中心に1960年代の高度経済成長期に集中的に成立した。また、内湾型マリーナは1973年のオイルショック以降、造船不況や円高不況によって臨海工業地帯の工業が空洞化した時期に、造船所を中心とする工場施設から転用されて成立した。さらに、霞ヶ浦・北浦と河口湖・山中湖に展開する湖沼型マリーナは、水質汚濁などの湖の環境変化に伴う漁業不振や魚種変化に対応して、1990年代に成立したことが明らかになった。

つぎに、それぞれの地域類型を代表する三浦半島西岸のシーボニアマリーナ、東京のニューポート江戸川、霞ヶ浦のマリーナを取り上げ、施設構成、利用者の社会階層やレクリエーション行動の範囲と内容を詳細に分析した。その結果、外洋型マリーナは保管艇の多くをヨットが占め、保管艇数は300隻台と大規模であり、ホテルやマンション、プールなどの付随施設を備えていた。その利用者は世田谷区を中心とする東京都区部西部の高級住宅地に居住する大企業経営者などの高額所得者層からなり、夏季に別荘やリゾートマンションに滞在して、沖合海域で大型のヨット・モーターボートを使ったセーリングやトローリング楽しんでいたことが判明した。内湾型マリーナは保管艇の主体がモーターボートであり、100隻未満の収容規模で、ボートの上下架施設や整備工場、給油・給水施設等の基本施設のみを備えていた。その利用者は東京都区部の東部に居住する小規模企業の経営者や会社員、公務員などの中産階級からなり、小型モーターボートを使って東京湾内の沿岸水域において釣りを楽しむ日帰り客

が多かった。一方、湖沼型マリーナは保管艇の大多数をブラックバスフィッシングボートが占め、小規模で保管施設のみの簡素な施設構成であった。その利用者は、東京都区部と市部および都県境界付近に集住する20～30歳の会社員から構成されていた。そして、かつて伝統漁業が操業されていた湖岸において、ブラックバスフィッシングを楽しむ日帰り客が多かった事実が解明された。

保管艇の種類と規模、関連施設によりマリーナを分類し、外洋型、内湾型、湖沼型の地域類型に区分した著者は、これら3地域のマリーナが日本経済の動向や余暇活動の普及・多様化を反映し、年代的にも空間的にも棲み分けて成立したことを明らかにした。しかも、これらの3地域類型のマリーナ利用者は田園調布を中心とする富裕階層から墨田区などの東京都区部東部の中産階級、その外側の若年サラリーマンというように居住地的にも社会階層的にも棲み分けていることが判明した。また、利用者のレクリエーション行動においても、外洋での滞在型クルージングから内湾での日帰り釣り、および湖沼でのブラックバスフィッシングというような違いが明らかになった。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、東京大都市圏のマリーナの立地と利用者の水域利用の特性を地道なフィールドワークにより実証的に解明したものである。その結果、対象地域は外洋型、内湾型、湖沼型の3地域類型に区分され、それぞれのマリーナは時間的・空間的に棲み分けて成立したものであること、およびマリーナ利用者は居住地、社会階層、レクリエーション行動においても棲み分けていることが明らかになった。本研究は一次資料の発掘と綿密な実証的研究の積み重ね、マリーナの立地の空間的特性と利用者の社会的棲み分けを解明したものとして高く評価できる。これらは観光地理学に新たな地平を拓いたものとして地理学的貢献も大である。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。